

島前合宿を振り返って

私は8月22日の夜から28日の朝にかけて、島根県隠岐諸島の島前地区に行きさまざまなことを学んできました。私自身、ほとんど関東から出たことがなかったので島根県はもちろんのこと、離島に行くのも初めてのことでした。そんな私が今回この島前合宿に参加しようと思った理由は、私が暮らしている環境とは全く違う環境を肌で感じ、島での生活を体験してみたいと思ったからです。

まず、夏休み中に行われるということもあり、夏休み前から事前学習を重ねていました。事前学習では、自分のライフストーリーチャートを書いてお互いに発表をしたり、島で伺う予定の社会福祉施設について学んだり、現地での行動を想像しながら進めることができました。島で行った活動は大きく分けて中学生との交流、福祉施設への訪問、海士町の祭りへの参加の三つです。

中学生との交流は、西ノ島にある西ノ島中学校で行いました。島前地区は西ノ島、海士町、知夫の三つの島からなっています。小学校と中学校は各島にあるのですが、高校は島前地区で一つしかありません。また、大学はないので大学進学をする人は必ず島を出ていくこととなります。そういった環境に置かれている生徒はどのように自分の将来を考え、学習意欲を持っているのか、私はそういった点に重点を置いて交流しました。まず、中学生と交流する前に担当の先生との打ち合わせをしたのですが、そこで感じたのは生徒一人一人のことをきちんと見て向き合っているということです。一人一人の生徒の性格をよく理解していて、生徒と先生の距離の近さを感じました。交流授業は、私たち大学生一人に対して中学生が一人または二人でペアになり、大学についての話や将来についてなどを話すというもので、中学生の考えている人生観や将来像についてこちら側が学ぶことも多くありました。私がペアになった男の子は、スポーツが好きでそれを将来どのように活かすべきか思い悩んでいました。私も彼もバスケット部に所属していたという共通点があり、体を動かすことが好きだという彼の話を親身に聞いたのではないかと思います。しかし、将来どんなことをしたいのか尋ねたところ、これとって具体的なことは決まっておらず勉強は頑張らないといけないと分かってはいるが何に向かって勉強をしたらいいのか分からないと言っていて、それについてうまくアドバイスすることが出来ませんでした。それでも私が中学3年生の時よりよっぽど将来のことをきちんと考えていて、すごいなと感心させられました。ほかにも高校から寮に入る予定の子や少し遠い高校に進学しようとしている子など、本当に一人一人が自分の将来について真剣に考えていてすごいなと思いました。この中学生との交流を通して、自分自身将来や人生観を改めて考えさせられる良い機会でした。また、中学生にとって少しでも将来の考え方や大学についてなど良い刺激になれていたらいいと思います。

同じ日の午後に伺った福祉施設「シオンの園」では、保育所、障がい福祉事業「ございな」、老人デイサービスセンター「デイサービスセンター・シオン」の三つの事業に大きく分かれ

ていて、私たちはその三つにそれぞれ分かれてお話を伺いに行きました。私は保育所でお話を伺ったのですが、事前に私たちが用意していた質問について非常に細かく答えてくださいました。島ということで海や山が近いので散歩の中でそういった自然と触れ合うことが出来るというのも島ならではの遊びだと主任保育の方はおっしゃっていました。私の通っていた幼稚園の周りには山や川がなく自然と触れ合う機会があまりなかったので、島という特長をしっかりと活かせていていいなと思いました。また、西ノ島で育った人が戻ってくることもあるけれど、全く違う人が来る「I ターン」も最近では増えてきているらしいです。その理由としては、田舎でのびのびと育てたいからという意見が多いと聞きました。田舎の良いところは、地域の方々との交流が多いということが全体的に聞いていて感じました。例えば、散歩中に地域の方が育てている野菜や果物をもらって食べたりしたりするそうです。西ノ島事体そこまで土地の大きいところではないので、散歩をしていて知らない人と会うことはまずないそうです。そういった点が、私が育ってきたところとはまるで違うと感じるとともに、こういうところで育てるという環境はとてもいいなと思いました。最後に、保育士をやっている大変なことや嬉しいと感じることは何かを伺いました。大変なことはやはり親御さんとの関わり方や関係づくりで、嬉しいことは島から出て行った人が島に遊びに来て、自分のことを覚えていてくれることだそうです。私が話を聞いていて最も印象に残ったのは、「こんなに笑う仕事はないと思う。」という主任保育の方の言葉です。それぐらい毎日楽しむことができるとても良い仕事なのだと感じることができました。最後に子どもたちと触れ合う時間をいただき、とても有意義で刺激的な時間を過ごすことができました。

四日目には、泊まっていた海士町で行われた「キンニャモニャ祭り」でキンニャモニャ踊りパレードに飛び入りで参加しました。しゃもじを二つ持って踊る踊りで、振りは単純なものだったのですぐに覚えることができ、地元の方々と楽しみながら踊ることが出来ました。祭りは港の前の広場で行う決して大きな祭りではなかったけれど、たくさんの方が集まり盛り上がっていて私たちも島の住民に仲間入りできたみたいでとても楽しかったです。また、前の日に交流した中学生も多く参加していて私たちに声をかけてくれたのが何より嬉しかったです。

この4泊5日の間に、たくさんの方々と触れ合い人の温かさを改めて感じる事ができました。明屋海岸に行った帰り、ちょうどいいバスの時間がなくタクシーを使ったのですが、そのタクシーの運転手の方が気を利かせてくれて隠岐牛を見ることができる放牧地を通ってくださり、初めてあんなに近くで牛を見ることができました。また、同じ法政大学の先輩である沼田さん家と宿泊先がたまたま近く、貝のおすそ分けをいただいたり、最終日のお昼にはサザエご飯や新鮮なイカの刺身などとても豪華なご飯を作ってください、島ならではの飯を食べることができました。自分たちだけでは絶対に知ることのできなかつた島の良いところを、いろいろな場面で感じる事ができとても充実した5日間だったと思います。また、私は実家通いであまり自炊をしないので自分たちで自炊をして洗濯をするという生活がとても新鮮だったし勉強になったこともたくさんありました。中学生の人生

観や島の保育の在り方、地元の人同士のつながりなど私が普段生活している中では絶対に学ぶことができないたくさんの知識を得ることができたのではないかと思います。二年生の先輩方が企画から宿泊先、訪問先や食事についてなど力強く私たち一年生を引っ張って行ってくださったおかげで、学習面だけでなく海に行き島を眺めたり明屋海岸に行きハートの岩を見ることができたり、おいしいご飯が食べられたりと楽しむこともできました。また、夜にはサークルについてなどの相談にも親身に話を聞いてくださりとてもお世話になりました。この島前合宿での経験は、私にとって非常に大きな宝物でありこれからの人生に役立っていくと思います。普段生活している中では決して味わうことができなかったこの経験をこれからの大学生活に活かすとともに、勉強に役立てていきたいです。